

合言葉は「無理せず、楽しく」

NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海の理事長に就任しました。初代の北風さん、二代目加藤さんの後を継ぐことに大変な重責を感じています。同時に、これまで責任ある立場で、この活動の礎

を築いてこられたお二人に心より敬意と感謝を申し上げます。私たちは、これまでの取り組みを礎に、更に継続・発展できるように会員一同、力を合わせ取り組んでいきたいと思っております。どうか、今後も御指導、御助言よろしくお願います。

さて、法人の目的は『奥能登の豊かな自然環境の保全、世界農業遺産に認定された地域の活力の創出』、『大学等の環境調査や保全活動への連携協力、支援』としていきます。これまで

多田進郎新理事長 あいさつ



発行：NPO法人
能登半島おらっ
ちゃんの里山里海
発行日：2022 年春



プロフィール 1987年3月富山大学文理学部（物理課程）卒。

最後に、いつも通り「無理せず、楽しく活動しよう」を合言葉に、これからも大いに議論し、ふるさとの豊かな自然を守っていきたくて考えています。

の「生き物調査」「保全活動」「学校教育への支援」等の取り組みは確実に継続・発展させることが大切であると考えます。今年度は新規事業として、主要事業のプロモーションビデオの製作が盛り込まれました。映像化することは、活動内容についての共通理解を通して、必要とする知識、技能の継承や能力向上が図られ、さらに積極的な情報発信により、興味ある方々の参加を促すことにつながるものと思っています。

新役員紹介

◎理事長

多田進郎

◎副理事長

加藤秀夫

北風八紘

金田直之（専務理事兼務）

◎理事

松田恭造

奥野弘吉

垣内信一

坂下豊志

木挽芳紀

尾形正宏

舟本克之

鴨谷欣治（事務局局長兼務）

◎監事

上野登起男

谷内口孝治

中学校教員理科担当から、校長を歴任し、2015年10月～21年9月珠洲市教育長。14年1月～22年1月当NPOの副理事長、22年1月理事長就任。珠洲市理科教育研究会会長、珠洲市環境教育研究会会長、珠洲市里山エドケータ―。



地球環境基金 LOVEBLUE助成



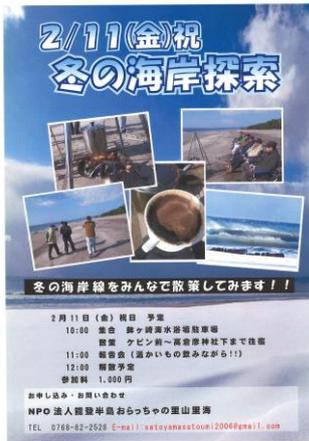
2期3年次目を迎えた地球環境基金の「LOVEBLUE助成事業」。この助成を受け、少しずつですがメニューを充実させてきました。今年度を実施した事業を紹介します。

学びながら楽しむ

おらっちゃんの里海

ウォーキング

開催日の2月11日(金・祝)は昨年引き続き、荒天ではなく好天となつてしまいました。荒海と吹き付ける雪まじりの強風を期待した企画としては、不満足な天気模様です。企画で連携をとる。道の駅す



ずなり”からの参加者も含め9名が、朝10時に鉢ヶ崎海水浴場駐車場に集合。鉢ヶ崎ケビンから高倉彦神社までの延長3.2kmの海岸線を歩いて散策しました。



砂浜には帯状にサクラ貝が流れ着いており、プラスチックの漂着ごみは少なくきれいな砂浜でした。打ち上げられた海藻もあまりなく、チェアーを出して海を眺めながら、暖かいコーヒーを飲み談笑する一ゆつたりとした時間がありました。昼食は、里山里海食堂へんざいもの沢谷さんが考えた、地

元食材を使ったメニュー「カジメのかす汁」「アカモクの天ぷら」「おにぎり」などをいただき、海藻の話で大いに盛り上がりました。散歩の途中、偶然出会った引退した競走馬ドリームシグナル号といつしよ

おらっちゃんの里海

釣り大会

11月3日(水・祝)は好天に恵まれ、蛸島漁港には珠洲市在住の親子など21組が参加しました。優勝したのはキス6匹を釣った前勝也・希世来チームで、副賞のカメラ付きドローンをゲットしました。キスはみんなで36匹も釣ったのに、残念ながらアブラメは1匹も釣れません



でした。時期と場所が悪いかもしれません。大物賞は、24cmのキスを釣った吾郷幸一・梨愛奈チームで、アブラメの代わりに大物賞はコチを釣り上げた貞勝浩・隆大チームでした。釣れた魚の種類は意外に多く、キス、コチ、コダイ、カワハギ、キュウス、ハチメ、クロダイ、タイ、フグなどです。コダイは33匹も釣れました。釣りの後はごみ拾い。漁港もきれいになったところで、表彰式の後、里山里海食堂へんざいものお母さんたちが作ってくれた、おにぎりといちん汁などをいただきました。来年も、コロナなんかにならずに楽しく釣り大会をやりましょう!



| 学校名 | 宝立小中 | 直小 | 正院小 | 大谷小中 | みさき小 |
|---------|--------|--------|-------|---------|----------|
| 参加人数 | 155名 | 48名 | 51名 | 19名 | |
| プラスチック | 36.5kg | 21.6kg | 2.9kg | 8.3.1kg | コロナ対策で中止 |
| 発泡スチロール | 1.2kg | 4.1kg | 0.3kg | 2.3kg | |
| 金属類 | 1.0kg | 10.9kg | 0.2kg | 4.5kg | |
| ビン類 | 0.9kg | 4.0kg | 0.2kg | 0.5kg | |
| その他 | 0 | 23.3kg | 1.6kg | 53.0kg | |



7月3日 直小学校



7月3日 宝立小中学校



7月6日 正院小学校



8月2日 大谷小中学校

みんなで
守る

🌊 おらっちゃんの里海

🌊 クリーンビーチ 🌊

今年も7〜8月にかけて、4校が私たちといっしょに海岸清掃を行いました。残念ながら

みさき小学校は、コロナ感染予防ということで中止となりましたが、来年はいっしょにできるといいですね。

漂着ごみは毎年のことです。プラスチックが多いと感じます。一つひとつは軽いのですが量が多いので全重量は重くなります。子どもたちもそれを

実感しており、「ごみを捨てないようになろう」と感想を寄せてくれました。

🌊 アサギマダラ調査 🌊

今年は5月中旬から「アサギマダラがたくさん来ている」という連絡があり、5月29、30日の調査に期待が高まります。幸い2日間で18頭にマーキングすることができました。

今年も珠洲市の後援をいただき、市内の親子9組26名が参加してくれました。マーキングの仕方については、スタート前にNPOの里山里海メイトである砂山美里子さんにお問い合わせしました。

29日は、集合してから雨が降って中止にしましたが、雨が上がるのを待って7時ころから7頭を捕獲しマーキングした親子もいました。

翌30日は11頭にマーキングすることができましたが、他の地域でマーキングされた蝶の再観察はありませんでした。私

たちがマーキングした蝶はどこかで捕獲されるかもしれません。楽しみですね。

🌊 おらっちゃんの

🌊 森づくり 🌊

10月30日(土)、珠洲市内外からスタッフも含め90名が参加し、NPO法人奥能登日置らい主催、当NPOなど共催の植林事業「菊炭の山里づくり運動」が開催されました。

私たちは、金沢方面からの参加者を、めだか交通のバスを借り上げ会場まで安全に輸送する役割を担っています。津幡高校の生徒や、宝立小中学校の生徒も参加してくれました。

大野製炭工場で菊炭をみて「きれい！」

と感動してくれた生徒もいて、年に一度の植林イベントは大盛況でした。



調査事業

NPOの設立当初から、奥能登珠洲に生息する希少な生き物たちを調査し観察して来ました。今回は、その調査結果の一部を取りまとめ、紹介したいと思います。

おらっちゃんの里海調査

スタートは、3年前の地球環境基金LOVEBLUE助成が決まってからで、私たちにとってはまだまだ目新しい調査対象です。助成事業で書籍を購入し、魚や海藻、貝の種類を見分ける勉強をしています。

三崎町小泊の長手崎せいせん工房下の海岸で、はだか網（ミニ地引き網）による海の生きもの調査です。今年も、4月〜11月まで計7回（うち2回は



児童生徒・能登学舎・能登里海教育研究所も参加)行い、毎回、網の投げ入れ方や引き方を試行錯誤しながら実施しました。里海学習の一環として、4月

30日には宝立小中学校の7年生10名が、7月7日には能登町小中学校6年

生12名が、はだか網を体験しました。網には、クサフグ、メバル、アナアオサ、ウスバアオリ、ワカメなど、2校で延べ20種の魚類・海藻類が獲れ、珠洲の里海の豊かさを実感していました。

これからも、毎月の定点調査とともに、はだか網体験による里海学習を広めていきたいと思っています。

砂ガニ調査

鉢ヶ崎ケビン前の海岸線で続けている夏の砂ガニ調査も今年で5年になりました。そこで、これまでの結果を表にまとめてみました。

| 調査年度 | 調査面積m ² | 巣穴の数 | 穴密度 | 最大甲幅mm | 備考 |
|-------|--------------------|------|-----|--------|------|
| 令和3年 | 150 | 282 | 1.8 | 30 | |
| 2年 | 150 | 280 | 1.8 | 25 | 午後調査 |
| 元年 | 150 | 65 | 0.4 | 22.6 | |
| 平成30年 | 300 | 122 | 0.4 | 26.5 | |
| 29年 | 150 | 145 | 0.9 | 22.5 | |

調査面積や調査日の違いはありますが、巣穴の密度などを比較してみると、穴密度が1・0より高い年は「穴が多い」と感じました。

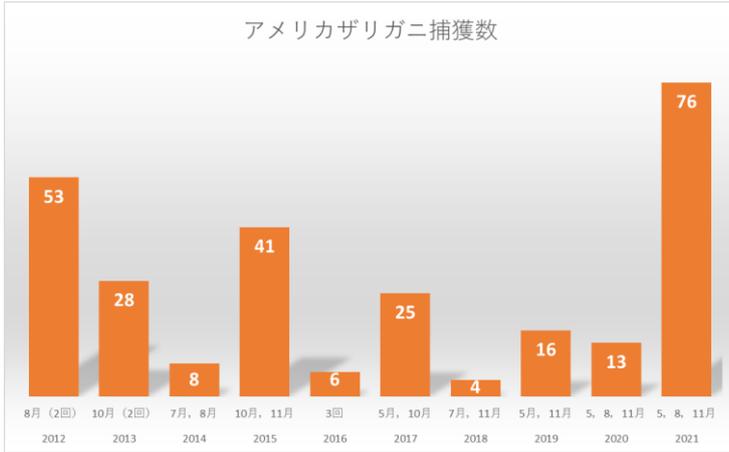
砂浜に生息する砂ガニは、自然の豊かさを図る指標生物です。砂浜が広がり、植物の植生域も広い鉢ヶ崎海岸は、砂ガニにとって生息し

やすい環境と言えるでしょう。

ドジョウ調査

三崎町栗津地区の水田には、2015年にドジョウが水路と水田を行き来できるよう、魚道を整備しました。それ以来、保全活動の一環としてドジョウの定点観測を行っています。今年も、水路(10カ所の溜め枒)で4回(3月、6月、9月、12月)のドジョウ調査を行いました。今年のドジョウの捕獲数は、3月(51匹)、6月(16匹)、9月(85匹)、12月(44匹)となり、昨年の捕獲数(各調査日で100匹以上)と比べて少なくなりました。

栗津地区のみなさんは、化学肥料や農薬を減らした米作りに取り組んでいます。今後、トキが住み続けられる田んぼとして維持・再生していくためにも、地域の方と協力して、トキのエサ場としての水田の保全活動に取り組んでいきたいと思っています。



アメリカザリガニ調査

2012年から、NPOによるアメリカザリガニ分布状況調査が始まりました。年度によって異なりますが、調査場所は、主に亀ヶ谷池です。ときどき、出田地区や野々江地区の水路も対象としてきました。調査回数は年2〜3回程度です。亀ヶ谷池では、トラップ「お

魚キラー」を池の周囲20カ所に設置、餌は煮干しです。午後4時ごろにトラップを投入し、翌日の午前9時ごろに引き上げました。水路の調査では、主にタモ網を用い、トラップも使いました。

21年度までの捕獲数について、珠洲市自然共生室で管理していたデータやNPOがまとめた『能登の里山里海の生物多様性調査』（13〜15年）を参考に、グラフ化してみました。

この10年間の捕獲数はグラフの通りです。捕獲数に上下はありますが、依然として亀ヶ谷池には多く生息していることが分かります。21年度の調査で、出田及び野々江地区の水路も調査しましたが、発見することはできませんでした。だからいい、ということにはならないですが…。

また今年度は、環境調査会社のプレック研究所（東京）から、亀ヶ谷池（珠洲市内の他のため池を含む）のアメリカザリガニ調査への協力依頼があり、NP

Oのメンバーも参加しました。およそ1カ月間の調査（トラップ・タモ網）で、亀ヶ谷池では1000匹以上が捕獲されました。杉山ダム上流のため池や河川にも、新たにアメリカザリガニの生存が確認され、今後はこれらのアメリカザリガニをどう駆除していくかを考えていかなければならないと思います。

私たちの調査活動は他にもあります。日本自然保護協会の「モニタリングサイト1000里地調査」に協力し、春はアカガエルの卵塊調査、夏前には「ホテルの調査」を実施し報告しています。「継続は力なり」です。何事も続けているからこそ、その貴重なデータとなると信じて、これからも続けていきたいと思えます。

耕作放棄地のヨシを活用して 水稻栽培！一石二鳥の取り組み

今年度、NPOで管理する水田で、小泊ビオトープの一角に生い茂るヨシを裁断したものを表面散布し、イネの成長や収量が変わるかを調べる実験を行いました。耕作放棄地の草刈りは重労働ですが、イネの栽培に効果があり！と分かれば里山の景観維持と、付加価値の高い米作りの一石二鳥が狙えます。現在結果を分析中ですが、稲刈りをしたNPOメンバーからは「ヨシを入れたほうが、明らか



実験区の6月下旬ごろの様子

かに株が大きい！」との声も。近く結果をお示しできると思います。
(NPO正会員 伊藤 浩二)

生きもの観察会

今年も珠洲市から受託し、市内9校の小学3年生（一部4年生含む）を対象に「珠洲の里山生きもの観察会」を実施しました。各小学校の観察場所はそれぞれ2カ所あり、春と秋の2回、同じ場所で観察しました。この2回の観察を通して「場所や季節によって発見できる生きものの種類が違うのはなぜか」などという疑問が、児童たちの中に自然と生まれていました。児童は、観察会で生まれたこのような「はてな」を学校に持ち帰り、総合的な学習の時間などで調べ、まとめました。

12月11日（土）にはラポルトすずを会場に「珠洲の里山生きもの観察会活動報告会」を行いました。今年度は土曜日開催となったので、多くの関係者や保護者も参加することができました。どの児童も、生きもの観察の

成果や自分で調べて得た内容を、はっきりと伝えていきました。「田んぼは人間や生き物にとって大切な場所であることに気がついた」「生き物の



住み家である水田を守るために、地元で採れたお米を食べるようにしたい」など、珠洲の豊かな自然を守っていくために

考えたことも発表していました。また、協力してくださった農家のみなさんからは「私たちも気がつかなかったことを発表していて感心しました」などという感想もありました。最後に、加藤理事長が「生き物に実際に触れて分かること、そこから整理し考えることで、新たな発見が生まれます。そういったことを大切にしたい」と講評を述べました。

こと、そこから整理し考えることで、新たな発見が生まれます。そういったことを大切にしたい」と講評を述べました。

編集後記…昨年に引き続きコロナ禍での活動となりました。今年で紹介したのは、地球環境基金の助成事業と、調査活動だけです。年間を通して実施している保全活動と農産物の生産については、左記の表での紹介のみになってしまいました。いろいろなことをしてみたい方はぜひ活動に参加してみてください。

| 2021年度保全活動 | | | 参加人数 |
|------------|--------------------|--|------|
| 活動日 | 活動内容 | | |
| 2月13日 | ホダ木の組み直し | | 4名 |
| 2月27日 | ホダ木の組み換え | | 8名 |
| 3月6日 | ホダ木の移動 | | 9名 |
| 3月17日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 3名 |
| 3月22日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 5名 |
| 3月23日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 4名 |
| 3月24日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 5名 |
| 3月26日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 4名 |
| 3月29日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 3名 |
| 3月30日 | シイタケ菌入れ | | 1名 |
| 3月30日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 3名 |
| 3月31日 | 乾燥シイタケづくり | | 1名 |
| 3月31日 | シイタケ菌入れ | | 4名 |
| 4月2日 | シイタケ菌入れ | | 5名 |
| 4月3日 | シイタケ収穫・乾燥、ホダ木の移動 | | 6名 |
| 4月8日 | シイタケ収穫・乾燥 | | 3名 |
| 4月9日 | シイタケ駒菌入れ | | 1名 |
| 4月10日 | 小泊ビオトープでニガ竹刈り | | 7名 |
| 4月24日 | 小泊田んぼの畦草刈り | | 7名 |
| 4月24日 | サドククルマユリ生息域環境整備 | | 5名 |
| 5月1日 | 小泊田んぼの畦草刈り粗起こし | | 9名 |
| 5月15日 | 小泊ビオトープの溝掃除・畦塗り | | 5名 |
| 5月22日 | 小泊ビオトープ田植え | | 9名 |
| 6月5日 | 森のステージ周辺整備 | | 8名 |
| 6月12日 | 保全林整備・森のステージ完成写真撮影 | | 9名 |
| 7月3日 | クリーンビーチ直 | | 48名 |
| 7月3日 | クリーンビーチ宝立 | | 155名 |
| 7月6日 | クリーンビーチ正院 | | 51名 |
| 7月10日 | 乾燥シイタケ袋詰め | | 8名 |
| 7月17日 | さつまいも畑の草取り | | 3名 |
| 7月17日 | サドククルマユリ観察 | | 4名 |
| 7月24日 | ジャガイモ掘り | | 6名 |
| 7月31日 | シイタケのホダ木の組み換え | | 8名 |
| 8月2日 | クリーンビーチ大谷 | | 23名 |
| 8月7日 | さつまいも畑の草取り | | 9名 |
| 9月14日 | ハザ立て | | 4名 |
| 9月25日 | 小泊ビオトープで稲刈り・ハザ干し | | 5名 |
| 9月28日 | 小豆の消毒 | | 1名 |
| 9月29日 | 小泊ビオトープ稲刈りハザ干し | | 7名 |
| 10月2日 | さつまいも掘り | | 4名 |
| 10月7日 | 小豆の消毒 | | 1名 |
| 10月16日 | 能登建設と合同保全活動 | | 75名 |
| 10月23日 | さつまいも掘り | | 5名 |
| 10月23日 | 植林準備草刈り | | 6名 |
| 10月26日 | ハザ干しもち米の脱穀 | | 4名 |
| 10月27日 | さつまいも掘り | | 4名 |
| 10月30日 | 菊炭の山里づくり運動 | | 8名 |
| 11月6日 | ホダ木の組み換え | | 5名 |
| 11月20日 | 小豆サヤほり、ハウスの片付け | | 3名 |
| 12月10日 | シイタケホダ木の移動 | | 6名 |
| | | | 581名 |